

第4回北区基本構想審議会部会1「躍動」 議事録

日 時：令和4年2月25日（金）午後2時00分～午後3時13分

場 所：北区役所別館2階研修室

出席者 加藤 久和部会長 阪口 毅副部会長
 新井 雅美委員 織戸 龍也委員
 名取 ひであき委員 平井 久朗委員

1 開 会

2 分野別の政策検討シートについて

（1）地域文化・生涯学習・スポーツ

- ① 意見共有
- ② 検討シート説明
- ③ 20年後の望ましい姿について（意見・感想）

3 意見交換

4 その他

5 閉 会

議事要旨

○事務局

ただいまから第4回部会1「躍動」部会を開催させていただきます。

本日も大変お忙しい中、当部会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの感染者数の数は高止まりの傾向が続いてございますが、席の間隔をしっかりとらせていただいて、対面での会議、よろしくお願いいたします。

本日でございますが、欠席の委員の方がいらっしゃいます。4名の委員から欠席のご連絡をいただいております。

前回同様、事務局へ事前にご提出をいただきました「20年後の望ましい姿」。こちらを印刷したものを席上に配布しております。

それでは、部会長、進行のほどよろしくお願いいたします。

○部会長

本日もお忙しい中、また寒さが残る中ご参集いただきまして、どうもありがとうございます。

まず、分野別の政策検討シートについて、地域文化・生涯学習・スポーツについての議論を進めていきたいと思っております。前回同様、事務局の説明を受ける前に委員の皆様から、この分野に対するご意見をいただきたいと思いますと考えております。事前に記入のご依頼がありました「20年後の望ましい姿」についてですが、事務局から政策検討シートの説明後にご発言をいただく時間も設けておりますので、ここではポイントを絞ってご発言いただければと思います。

最初に、私から話をさせていただきたいと思っております。

私自身、コミュニティあるいは生涯学習、スポーツ、文化芸術というのは、非常に難しい分野だなと思っております。個人的には皆さんが考えている姿というものをいかにしてつくっていくのかというのは、合意の形成等々、難しいところがあると思うのですが、やはり北区民として、地域にアイデンティティを誰もが持てるということが一番大事なことはないかなと思っております。

そうなりますと、ただ北区の中に住んでいるとか、ただ単に地域で働いているということだけではなくて、ここでの根差した生活や交流、そういったものを行えることがまずは大事なことはないかなと思っております。そして、それぞれの価値観の中で強制することなく、お互いの交流が行える地域であるということ。それによってスポーツや文化、芸術といった交流が活発になっていくのだろうと思っております。

個人的には最近よく言われておりますが、リカレント教育だけではなくてリスキリングのような様々な技能実習あるいはスキルアップといったことが、教育機関や企業だけではなく、地域の中で行えるような姿というのも大事なのだろうと思っております。これは生涯学習の中にもつながっていくと思うのですが、北区内の教育機関や、またハローワーク等との連携が非常に重要になってくるのではないかなと思っております。

また、北区が東京の中、東京都のそれ自体もそうなのですが、まだまだ若い地域かもしれないませんが、今後20年後ということを考えますと相当高齢者が増えてまいります。高齢者になりますと、やはり体力の維持というのが大事になってきますので、スポーツ

という中だけではなく、体力の維持あるいは高齢者間のコミュニティを保つためにも、様々な機会、ジムなどの提供によるスポーツ、レクリエーション機会を十分に確保していくということが、非常に大事なのではないかなと思っております。

次、副部会長、よろしくお願いいたします。

○副部会長

これまでの部会で繰り返し、いろいろなテーマで議論してきたこととすり合わせて考えていきたいなと思っております。

私の資料を見ていただきたいのですが、文化芸術にせよ、生涯学習にせよ、スポーツにせよ、文化政策そのものがそれぞれ単独の試みとしてではなく、これまで議論してきたシティプロモーションですとか、地域産業振興ですとか、商店街の活性化とか、コミュニティ形成などの各分野と有機的に関連させていくことができるような仕掛けとか、そういう展望を持って理念をつくっていくのがいいのではないかなと思いました。

文化を守ることが何のためなのかというところを、ほかの分野の波及効果みたいなものを含めて体系立てて見せていけるといいのかなと思いました。

それから歴史文化的な資源は幾つもあるわけですが、それがどういうふうにつながっているのかというところをきちんと見せていくということが、実は①を行っていく上で重要なことだと思います。行事とかイベントは個々ありますが、それがどういうサイクルで、どういうつながりを持っているのかとかですね。空間的には、北区全体の文化というべきものと、各地区の地域の固有性みたいなものも表しているものと、そういった見せ方も必要かなと思いました。

それから、政策検討シートのほうで、様々なこれまでの実績とか、これからの計画とか残されていましたが、特に大学との連携みたいなところをもう少し行ってもいいのかなと思いました。特にジュニアリーダーとかシニアリーダーの教育というのをすごく熱心にされているということなので、さらにそれが大学生との連携みたいなところまでいくと、社会教育的にもすごくいい仕掛けになってくるのではないかなと思しました。

私からは以上です。

○委員

今回の地域文化・生涯学習・スポーツというテーマで、どのようなことを区民が望んでいる、どのようなことを行政が提供できて、どのようなことが一緒になってできるのかなというのが、例えばスポーツでも、生涯学習でも、趣味嗜好はいろいろ違うので、一概にどういう形がいいのかというのは、皆さんのお話を聞きながら自分のほうもまとめていきたいなと思っております。そのスタンスで思い当たったことだけ記入させていただきました。

まず、地域文化に関しては、お祭りだとか、文化的イベントなどを今後、拡充、広報、育成していくのがいいのかなと考えています。あと北区でも大規模な遺跡や仏閣というのは少ないのですが、小規模な遺跡や仏閣は多数ありますので、そういうのをやはり区民の皆様、近隣の皆様にもう少し知らせる、マップ的なもので知らせていくとい

うのもいいのかなと考えました。

あと北区の文化人とか、アーティストをもう少し北区で盛り上げていくようなことができたらいいのかなというように感じました。

生涯学習に関しては、やはりいろいろな講座もリアルで行ってありますけれども、インターネット配信をそろそろ考えて行きながら、自由な時間に自由にアクセスできるような仕組みをつくったらいいのではと。

あとその中で、例えばお料理講座を行うのであれば、お料理に関連する企業とか、小売店とか、学習となると学校とかそういうこと。多分、連携をしながら進めていくというのがいいのではないかなと。

それをつくり上げるためにもいろいろな時間を使い、いろいろなコミュニティがどんどんできていくと思うので、そういう形をどんどんつくって、こちらから一方的に与えて「何々やりますよ、いつ来てください」というような形ではなく、そのようなものを推進していったらいいのではないかと思います。

先ほども言わせてもらったのですが、皆さんが望んでいるものはかなり細分化されて違う部分があるので、そういうところをどういうふうに集約しながら、多い形に貢献できるようなものが何かあったらいいのかなと考えております。

スポーツに関しては、やはりこれもソフトとハード。場所の問題、施設の問題、いろいろなことが絡んでくると思いますので、まずそこが一番大事になってしまうのかなという感じはいたします。

もうスポーツというものに大きくこだわらないで、地域でできる例えば綱引き大会とか、そういうものをあちこちで開催しながら、どんどんコミュニケーションを広げていって、最終的には、毎年何月には綱引きの大会があるので今年は優勝を目指すぞ、そのようなものができたら非常にいいのかなと考えました。

簡単ですが、以上になります。

○部会長

ありがとうございました。

それでは、続きまして、委員、お願いいたします。

○委員

地域文化・生涯学習・スポーツは、20年後でも一人で楽しめるジャンルであれば問題はあまりないと思いますが、この三つの分野では、複数で楽しむことも多いと思います。現代社会の中では個人で楽しむ傾向が強く、今後も一人で体も動かすこともなく、映像とか映画、スマホ、スポーツ観戦などで楽しんでいきそうな気がします。

一人で孤立化していくより、人間同士がつながり、グループでコミュニティをつくりながら楽しむことをしていける社会でありたいと思っています。基本構想の中に、せめてこの3分野の将来に向け、行政として力を入れてほしいと思っていますということで、この3点のうちの基本は人と人とのつながりという観点で少し話をさせていただきます。

地域文化ということで、私は町会活動を40年程行っております。また、生涯学習という点では、教育委員会絡みのこともあるし、自分の趣味の彫刻だとか、骨董だとか、

いろいろなことであろうかと思えます。

また、スポーツにしては、少年野球の活動を私のチームも28年ぐらい引っ張った経験もあります。

そういった中で大事なものは、人と人の基本になるものはつながりで、それが一番大切なのかなと思っております。現在、少年野球のチームも北区中で20チーム足らなくなって、最盛期は100チーム、北区に野球のチームがあった時代、それがどんどんなくなって、サッカーをやったりいろいろなスポーツもあるから、枝は分かれていってもスポーツとして、そういったところを経験できる子どもたちがいればいいのでしょうか。どんどんやらなくなってきています、現在。

そういったことで、人との関係を持つよりもゲームで遊んでいるとか、あるいは自分の体を動かさないで観戦しているとか、テレビや何かでも自分で好きなジャンルの映画を眺めて、1年中でも見ていられるほどのものが中にもう入っている。そういう時代を好き勝手に選んで、我慢ということも何も知らないし、コミュニティ、人とのつながり、一番大事なところを置き忘れて、自分だけで生きているようなつもりになってしまうというのは、やはり考えものであり、この3分野に取りあえず分けてあるのでしょうか。この中の基本が人と人のつながりという視点をどうしても外すことはできないという意味で、取り上げさせていただきます。

ぜひともこれから、行政のところでも大変重要な課題になるところで、人と人のつながり、人間関係というものを築いていけるよう、力を注いでいかなくてはいけないのかなと思っております。どうかこちら辺の視点も含めて、お考えいただきたいとそうように思っております。どうかその点、注意してこの基本構想に組み入れていただきたいとそうように考えております。

○部会長

ありがとうございました。

それでは、お願いいたします。

○委員

地域文化・生涯学習・スポーツ。これは、全体的に三つひっくるめて全部文化の話なのかなと私の中で解釈しているのですが、文化は多分考え方のことでカルチャーなのではないかなと思うのです。これというのは暮らしのオプションを示すことで、この地域の付加価値的な要素として、この地域の文化、地域らしさみたいなところを象徴しているものなのかなと思っております。

その中で、地域文化とか生涯学習ともに、現代の中での考え方とか、今この北区の在り方から見ていくと、渋谷栄一のイズムというのが今期、皆さんが取り組んできた大河ドラマの中心としながらも、今後20年間で今まであまり根づいて来なかったというふうに思っているのですが、根づいていない渋谷栄一の考え方とか思想というのを、北区の文化にしていくということが一つ大事なのかなと思えます。

これは、もちろん生涯学習の面でも渋谷栄一はいろいろなことに対して補助してきたと思えますし、飛鳥山で今までではじめての運動会をしたりとかでスポーツのことにも

関わりがありますし、いろいろなことに結びつけながら、そこから引っ張っていくのがいいのかなと思っております。

2点目としてあげているのが、アウトドア防災という書き方をしたのですけれども、北区はもちろん河川とともに生きる街として、荒川の、もちろん荒川以外にも小さな川、細い川、町の中を通っている川があると思います。その中で、やはり日常と災害時における対応を楽しく学びあえる関係性というのが大事なのかなと思いました。これはせっかく荒川の土手という、なかなかほかの土地にはない大きな広大な土地を持っているながら、そこを北区のほうで所有しながら使える場所もたくさん含まれていると思います。その中の土手の活用だったりとか、河川周りでのいろいろな生き方みたいなのが、今後広がっていくといいのかなと思っております。

三つ目として、新庁舎が北区の文化的な象徴になってほしいということです。向こう20年を考えたときに途中に出来上がる役所のことを考えると、やはりそれというのが、現在は役所に用事があって来るだったりとかということが多いのですけれども、実際には、もう少し文化的なカルチャーとともに役所があることによって、地域の声を広げやすい場所になるのかなと思っております。ハードの整備のところに、しっかりとカルチャーの面を入れていくというのが大事なのかなと思っております。

四つ目として、スポーツに関しては、結構北区はいろいろなことに取り組んでいるのではないかなと思っていて、もちろんサッカーチームをつくったりとか、いろいろなプロの選手を輩出したり、応援したりとかもあると思うのですけれども。これからオリンピックの新種目だったりとか、これから新しく取り上げられるだろうと思われるストリートスポーツ、もしくはストリートカルチャーみたいなものをどんどん拾い上げていくような形で、地域、こういうネットワークのある場所ですから、コミュニティということと結びつけながら根強く行っていくということで、小さな公園だったりとか、外での過ごし方を考える中でのスケートボードのパークだったりとか、バスケの3×3のコートだったりなどの設置などを考えていきながら、いろいろまちづくりとスポーツ、さらにはその暮らしのオプションが選べる町になるといいのかなと思いました。

○部会長

ありがとうございました。

それでは、お願いいたします。

○委員

地域文化について、私は北区に住んでもうすぐ20年ぐらいになりますけれども、そもそも北区で継承していきたい地域文化というのが何なのかは、住んでいて、多分歴史上の人物で近いところと言えば渋沢栄一と、あとは文化人の芥川龍之介とか、そういうところなのだろうなという感じで、ここに住んでいても身近に彼らはいない感じがしないというところがあります。

継承したい文化そのものが何なのか、はっきり形となるものを示してほしいというか、そういうのを幼稚園、小学校などの教育の中でも子どもたちに教えていく必要があるのかなというふうに思いました。歴史上の人物とか、大晦日のきつねの行列とかを継承す

る文化を取り入れたすごろく遊びですとか、郷土かるたなどの遊びを広げるのもいいのかなと思いました。

ただ、その一方で、過去からのものをずっとこれが北区の地域文化だというふうに積み上げていくことだけにとられるのは問題だなと思っていて、地域文化の一番下のところに書いたメタバース、仮想空間の北区をつくり上げて、新しい文化をつくり出してもいいということで、仮想空間とかオンラインのものというのは、今後どんどん広がっていきます。それをいち早く形、サービスにして文化であったり、生涯学習、スポーツの中に取り入れて、広めていくことがとても大切ではないかなというふうに思っています。

また、ココキタのような文化活動の拠点が1か所に限られていると、子どもたちが行きたくても親が連れて行かなければならない、そうすると、親が仕事をしていると子どもたちがそういったものに触れる機会が減ってしまうということがありますので。文化活動拠点が各エリアにあって、小学生が一人でも遊びに行くと、文化、芸能に触れる機会がより多くあるという状態が望ましいと思います。

また、この施設が、例えば学校の勉強にはついていけないけれども、芸能とかスポーツに突出した才能を持っている子どもたちの学校の機能を持つような、学校と言えば、何々小学校、その地域のエリアに必ず行くという、そのシステムはもうすぐ崩壊してくるというか、もう変わりつつあると思います。それが今はフリースクールというような形になっていたり、保健室通いという形で、何とか学校に行っているような体になっているところがありますけれども、それが、その子の才能を持っているところで日中をちゃんと過ごして、その才能を伸ばす場が提供されるという仕組みがもうできていいのではないかなと思います。

地域の特性とかよさを知るためには、外を知ることが大事なので、都外とか自分の活動エリアに小さいときから出る機会があって、外を学ぶということがあっていいのではないかなというふうに思いました。

生涯学習、スポーツですけれども、私の仕事はスポーツトレーナー、パーソナルトレーナーを仕事としていますので、実際にゲームで、お家などで遊んでいるというよりは、外で体を動かそう、そっちのほうの方が絶対にいいというのが、基本にはありますけれども、でも、eスポーツとか、オンラインのゲームの世界の流れというのは止めることができませぬし、そのよさというのがあるので、そのよさというのもどんどんと広めていったほうがいいなと思っています。

私のおいが4歳とか幼稚園のとき、主人の弟は50歳近いのですけれども、それだけの年齢差があっても、一つのゲームで対等に話して、対等に戦っていて、この間スマートフォンのお店、携帯ショップに行ったときに小学生が大学生くらいの店員、アルバイトに、物すごくいろいろな機能について質問をしていて、対等に話し合っていました。これはすばらしいことだなと思いました。

eスポーツとかオンラインというところだと、年齢差のハンディがなく、対等に人と人としての交流ができる。このよさをどんどん広めていって、オンラインでも、高齢者も子どもも対等に多世代交流ができてい場というのを促進する。そのオンラインから、リアルに今度こういった交流会をしようよとか、オンラインから外に出す、オンラ

インとリアルのパイプみたいなものもできてくるのではないかなと思います。というわけで、年代別のeスポーツ大会ですとか、多世代交流のeスポーツ大会などができるといいと思います。

あと、それとは別に、先ほど委員がおっしゃっていただいたような綱引き大会のような区を上げての地域対抗の運動会、お祭りというのも地域活性にもなると思いますし、生涯学習、スポーツという面では必要だなと思っています。

そしてVRを使った運動会。これは例えば、足にハンディがあったりですとか、例えばご高齢によって体が動かなくなってしまったというときも、VRを使ったりとか、eスポーツを使うことで、まるで自分の運動機能を失ってしまったところを使って、体を動かしているような感覚でスポーツをすることができます。これは、場合によってはリハビリ要素を含む。低下してしまった筋力であったり、失ってしまった運動機能を脳が使っているように錯覚させることができますので、こういった生涯学習であったり、スポーツというのも盛んに行われている北区というのを望みます。

そして、幼稚園、保育園、学校が運動、体づくりに力を入れて、健康増進にみずから努め、週1回1時間以上の運動をする者が60%を超えている北区。そして、体育館、屋外のスポーツ施設が増設されて、先ほど委員が話したみたいに外でボールを使って遊べる公園、スケボーができるとか、もっと自分の興味あることに自然に触れて、自然にそれを行って、そこで自然発生的にコミュニティができていくという地域づくりも必要だなというふうに考えています。

そしてここには書いていないのですけれども、文化のところの一つ付け加えさせていただきたいのが、言語ですね。言葉は、日本語は文化と結びついているものだと思うのですけれども、今後外国人がたくさん北区に流入してくるというときに、日本語でしか交流できないとか、日本人は日本語しかしゃべれないという、そういうのも20年後にはもっと形を変えているべきではないかと思っています。

外国人の言葉を理解して、相手の地域文化を取り入れている北区であったり、前回の部会で、例えばアジアン街とかコリアン街が、ある一角だけでもいいから、そういった地域をつくるべきだというお話をさせていただいたのですけれども。そこでその外国の文化、言語が普通に使われている、それに北区民がいつでも触れられる。そして、海外であったり、県外区外の観光もそうですけれども、人たちがほかの文化に触れる機会というのを身近につくられているということも必要ではないかなというふうに考えました。以上です。

○部会長

はい、ありがとうございます。

欠席委員の方のシートについては、事務局よりご説明お願いいたします。

○事務局

事務局から説明させていただきます。

本日、欠席されております2名の委員の意見でございます。こちら4ページでございます。抜粋してご紹介をさせていただきたいと思います。

地域文化についての一つ目でございます。地域の伝統行事、お祭りを受け継ぐ。こちらは先ほど、拡充や育成の視点でも委員からご意見をいただいたところでございます。

また、生涯学習の分野については一つ目のところ、PCやインターネットが自由に使って学習できるスペースが区内に何か所もある。それから、学習環境の整備ということで、オンラインについても先ほど皆さんからご意見をいただいたところでございます。

生涯学習の三つ目のところ、近隣大学との連携、こちらも、委員から先ほど連携についてのご指摘をいただいたところでございます。

最後にスポーツのところ、一つ目のところで、小さな子から高齢者まで気軽にスポーツが楽しめる環境づくり。特に10代の部活やクラブチーム以外の気軽に運動ができる場所をとということで、運動環境についてのご意見をいただいたところでございます。

次のご意見でございます。

上から五つ目、ご覧いただきますでしょうか。もっと地域文化、有名どころを利用して、イベント、文化事業を行うということで、先ほど、渋沢栄一のお話であったり、芥川龍之介の話もあったと思うのですが、そういったことの有名どころというのを活用した事業展開というところのご意見であるというふうに認識をしております。

また、その下でございます、様々な状況。こちらが生涯学習に対するご意見で、様々な状況（経験、生活、学問、スポーツ等）を通じて、将来育ちゆく子どもたちに、人間形成をしていくのも生涯学習の大切な課題であるというご意見をいただいております。

最後に、下から二つ目、ご覧ください。スポーツを開催する場所づくりも考え、地域の活性化につなげるということで、スポーツの環境づくりとともに地域の活性化につなげる、こういったご意見をいただいております。

以上、欠席された委員のご意見、紹介をさせていただきました。

○部会長

ありがとうございました。

それでは、次に、政策検討シート「地域文化・生涯学習・スポーツ」について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局

それでは「地域文化・生涯学習・スポーツ」の検討シートについて説明をさせていただきます。

まず、本日、こちらご意見をいただくのですが、こちらの基本計画の掲載ページを紹介させていただきたいと思っております。こちらの88ページ、ご覧いただけますでしょうか。政策2-3「個性豊かな地域文化の創造」ということで、こちらの基本方針に書かれている（1）文化芸術活動の活性化、（2）歴史的文化の保存、継承や活用、こういったところでございます。

また、続いて94ページでございます。2-4「生涯学習の推進」で、こちら、基本方針をご覧いただきたいと思うのですが、（1）情報提供・相談体制の充実、（2）学習機会の拡充、（3）学習機会の活用、成果の活用でございます。こういったところを盛り込んでおります。

また、もう一つ、スポーツの分野でございます、98ページ、ご覧いただけますでしょうか。政策の2-5「生涯スポーツの推進」で、こちらの基本方針でございます。

(1) スポーツの場の整備、もう一つ、(2) 参加機会の拡充、これらの三つの政策を合わせて、今回、こちらの政策検討シートへまとめさせていただいたところでございます。

これらの分野については、年齢を問わず、個人が主体的な地域活動や文化的な学びの場を通じて、個性や能力を十分に発揮し、暮らしの中において楽しさを実感したり、豊かな心を育むだけでなく、次世代への継承と地域社会への貢献という学びの循環を目指していくという共通要素が多く、政策として打ち出す場合、同じ政策のくくりにするのが妥当だというふうに考え、一つにまとめたところでございます。

政策検討シートについて説明をさせていただきたいと思います。

まず1の(1) 地域文化でございます。

1の当該分野の実績と成果についての(1) 地域文化の主な実績でございますが、先ほど、ご意見にも出ていました、二つ目にあります、ココキタでございます。文化芸術活動拠点のココキタを開設したことや、その下でございます田端文士村記念館や、もう一つ、その下の飛鳥山博物館の事業など、こちらを主な実績とさせていただきます、右隣に主な成果、事業の参加者数などとさせていただいております。こちらのシートについても、今までのシート同様、平成27年度以降の実績ということで記載をさせていただいております。

次に、(2) 生涯学習の主な実績ということで、こちらは、一番下の、上から四つ目をご覧くださいと思います。上から四つ目の青少年団体のリーダー養成などとし、こちらについても先ほどシニアリーダー、ジュニアリーダーのご意見をいただいたところでございますが、こちらについての主な成果の一番下をご覧くださいと思うのですが、循環型生涯学習の促進、こちらを主な成果とさせていただいております。

続いて(3) スポーツの主な実績については、一つ目の全区的、広域的、総合スポーツ大会ができる赤羽体育館の建設や、二つ目の区内スポーツ施設などのバリアフリー整備の実施、四つ目のトップアスリート直伝教室などの事業とし、主な成果については、施設の利用者数や事業の参加者数などとさせていただいております。

続いて、青いところ2をご覧くださいと思います。2の当該分野における区を取り巻く環境の変化でございますが、1の項目について、社会経済動向、法制度や国・都の政策の変化、区民ニーズや行動の変化で分けてお示しをさせていただいております。

まず、左下の社会経済動向でございますが、一つ目の新型コロナウイルス感染拡大による文化事業の中止、文化施設の貸出し中止など、文化芸術活動も困難な状況が続いているところをあげさせていただいております。

続いて真ん中の法制度や国・都の政策の変化をご覧くださいと思うのですが、こちら下から二つ目、ご覧いただけますでしょうか。国は第二期スポーツ基本計画の中で、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進と、その環境整備を行うとし、その結果として成人のスポーツ実施率を週1回以上が65%程度、週3回以上が30%程度となること、これを国としても目指しているところをこちらに記載をさせていただいております。後ほど、北区のスポーツ実施率についても2枚目でご紹介をさせていただいた

いと思います。

次に、右隣の区民ニーズや行動の変化でございますが、二つ目の新型コロナウイルスの影響により、自宅での動画等の鑑賞が増加していること。こちら先ほど委員からご指摘いただいたところでございます。また、四つ目の区民意識・意向調査において「今後、地域のスポーツ振興のため、区が力を入れるべきこと」として「区内スポーツ施設の整備」の割合、これが最も意向が高かったこと、こちらをあげさせていただいております。

続いて、3の区の現状の（1）地域文化についての現状でございます。一つ目と四つ目、ご覧いただけますでしょうか。

まず一つ目についてでございます。新型コロナウイルス感染症の影響によるココキタの利用者数の減や事業の中止などについて記載をさせていただいております。こちら、関連資料でございます。図表1も参考で閲覧になっていただければというふうに思います。また、四つ目については、区内の文化財の指定などについて、こちらについてあげさせていただいております。

続いて、3の区の現状の（2）生涯学習についての現状ということで、一つ目については、生涯学習に関する情報提供及び学習相談について記載をさせていただいて、二つ目については講座のオンライン配信、こういったところを実施していくと記載しております。三つ目については、学習成果の活用機会の拡充など、こういったところもあげさせていただいているところでございます。

こちらの関連資料の図表2も参考にご覧をいただきたいと思うのですが、区民意識・意向調査の実施結果でございます。今後、生涯学習を推進するため、区が力を入れるべきと思うことの第1位については、前回同様、学習の場の充実である一方で、第2位の生涯学習に関する情報の提供、この回答した割合については、前回の調査に比べてポイントが非常に伸びているということで、前は20.2%のところ、今回38.1%といったところでございます。

3の区の現状の（3）スポーツ、ご覧いただきたいと思っております。こちらについては、一つ目と二つ目、ご覧いただきたいと思っております。

まず一つ目、区立スポーツ施設の老朽化やスポーツ施設の利用者数が増加傾向にあること。二つ目が、北区のスポーツ実施率、こちらは43.4%ということで、東京都を下回っていることをあげさせていただいております。こちらの関連資料の図表3をご覧くださいと思うのですが、このグラフのスポーツ実施率についてですが、週1日以上の運動・スポーツを行う区民の割合ということでお示しをさせていただいてまいし、本区のスポーツの定義というところなのですが、勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、ウォーキングや軽い体操、健康増進や介護予防のための、そういった運動も含んでいるということで、60代、70代の方のスポーツ実施率が高いといったところでございます。

こちら、現状を今、説明をさせていただきましたが、これらの現状を踏まえまして、主な課題でございますが、左下の4をご覧くださいと思っております。

まず、4の上から二つ、こちらについて、地域文化の課題ということであげさせていただいております。4の上から二つでございます。コロナ収束後における価値観の変化

に応じた文化事業や若手アーティスト支援の検討をすること。こちらが、まず一つ目の課題としております。二つ目が、歴史や文化に触れる機会の提供、次世代への継承と活用、こちらを課題とさせていただきます。

課題の4の上から三つ目、四つ目、こちらは生涯学習の課題ということであげさせていただきます。多様化する区民の学習スタイルに合わせた事業・講座の提供。学習成果を生かす仕組みづくりや学びを還元できる場の整備の必要性。こちらを生涯学習の課題とさせていただきます。

課題の4の上から五つ目と六つ目、こちらについては、スポーツの課題ということであげさせていただきます。五つ目がスポーツ施設の改築及び大規模改修などの必要性。六つ目が身近で気軽に参加できる場の提供が必要であること。これをあげさせていただきます。

今、説明いたしました課題に対する5の取組の方向性でございます。

5の上から二つの記述、こちら、地域文化の取組の方向性ということで記載をさせていただきます。文化芸術を楽しめる環境の整備や若手アーティストの育成・支援など。二つ目が、文化財保存・活用事業の充実を図ること。これを取組の方向性としております。

取組の方向性の上から三つ目、四つ目、五つ目、こちらは生涯学習の取組の方向性ということで記載をさせていただきます。区民の一人一人の主体的な学びを支援すること。リカレント教育やオンライン発信を含めた多様な学習機会の創出など。区民が学習成果を活用できる、関係機関と連携した仕組みをつくること。これを取組の方向性とさせていただきます。

取組の方向性の5の下から二つ目、ご覧いただけますでしょうか。こちらはスポーツの取組の方向性ということで記載をさせていただきます。スポーツ施設のハード、ソフト両面において整備・改善を図るとともに、誰もが身近な場所で気軽にスポーツに関わることのできるよう機会を拡充すること。これをスポーツの取組の方向性としております。

検討シートについての説明は、以上でございます。よろしく申し上げます。

○部会長

どうもありがとうございました。

最初に、今ご説明いただきました政策検討シートについて、何かご質問等ございますでしょうか。

もしなければ、ただいまの資料のご説明を受けまして、皆さんから、この分野の20年後の望ましい姿や具体的な政策に関するご意見、ご感想等を改めてまたご発言いただければというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

先ほどと同じ順番で、私のほうからやらせていただければと思います。

委員の皆様方からのお話を伺いながら、幾つか考えたことがございます。

一つは、これは2人の委員からお話があったのですが、北区のアイデンティティーだとか地域文化とは何なのかということと、それを考えていく中でいうと、一番大事なのは新住民の方々をいかに引き込んでいくのかなという感じがします。やはり、

北区に長く住まわれている方にとってみれば当たり前のことが、新しく住まわれる方にとってはなかなかそう簡単、当たり前の話ではないというようなこともあるのかなと思いました。

二つ目は、これは委員からもお話があったのですけれども、やはり地域や文化だとか、学習やスポーツというのはそれだけではなくて、シティ・プロモーション等々と連携させることというのは大事なのだと、改めて気づかされたということがございます。

三つ目は、もし、この生涯学習だとかスポーツだとか、そういったことを基本構想の中で書くとすると、北区の独自性は一体何なのだろうかということを考えることがございます。多分、この北区ではない、ほかの区の名前を入れても同じような話になってしまうようなことがあったらどうなのか。その意味でいうと、差別化すべきこととは何なのかというのをはっきりさせていく必要があるのかなというふうに思いました。

それからもう一つ、生涯学習というのは、今までずっと出てきたのですが、最近ではリカレント学習等含めてリスキリングみたいな話も出てきております。これを本当は、仕事あるいは職務の資格、あるいは技能をいかにして充実させていくのかという視点も入れていただきたいというのがありますし、さらに言えば、これは委員からもいろいろお話があったのですけれども、例えば、新しい世代の中でデジタルトランスフォーメーションだとかAIの使い方だとか、そういったことをやはり区民の方々に周知させていくというような、そういう役割もあっていいのかなというふうに考えております。

差別化のもう一つの視点というのは、これは委員もおっしゃっていたのですが、私も欲しいなと思います。例えば、何でもかんでもそろえるというよりも、例えばストリートスポーツの街であるという形での打ち出しの仕方とか、これも差別化にも関わってくると思うのですね。そういったような視点を、やはりどこかに入れて、北区の、こういったスポーツ事業というのは、こういうことを行っているのだということが誰でも分かるような、そういうようなところを、やはりぜひ示していただけるとありがたいなというふうに思いました。

では、副部長、よろしく申し上げます。

○副部長

ご説明いただき、ありがとうございました。

今、部長が的確なことを言っているので、私の意見も含めてまとめていただいた感じがするのですが、少し重なるところもあるのですが、皆さんのお話を伺って考えたことを手短にお伝えしたいと思います。

文化政策、大きくまとめれば文化政策だと思うのですけれども、最初に申し上げたとおり、なぜ文化を継承するのかとか、なぜ文化を振興しなければならないのかという部分もしっかり書き込んでいくことが、やはり、これから必要なのかなと思いました。単に伝統だからとか、単に愛着を持ってもらう必要があるからだとかではなく、やはり他分野との連携の中で文化を振興することに、どういう意義があるのかということのを的確に打ち出す必要があるのかなと思います。

大きく二つの意義があるかなと思っていて、一つは、委員からもあったとおり、付加価値ということだと思いますね。これだけ人が移動して、オンラインでのビジネスも活

発化する中で、場所の意味というのは失われつつある中で、ここでなければならぬものは何なのかというときに、付加価値が必要だという話なのだと思いますね。

それは、観光であったり、移住者を増やすことであったり、あるいは地域産業振興ということでは、物づくりとかに取り組んでいくみたいな話も重要だと思いますし、商店街活性化という面でも、小売業は、商品だけ見ればどこでも買えるわけで、その場所に行って買うことの体験が大事かなということを含めて、何か場所と結びついた、北区という場所と結びついた付加価値をつくっていくために文化政策が必要なのだみたいな展望が必要かなと思いました。

もう一つは、様々な委員からお話があったとおり、委員からもあった、人と人とのつながりとコミュニティ形成の核になっていくというような文化政策の意義だと思います。それは、地域アイデンティティーの醸成とか、愛着とかということに関わるかなと思いました。

この点でいうと、北区全体での地域文化とは何なのかという論点と、北区の中での各地区での文化とは何なのかということのを両方見ておく必要があるかなという気がしました。

最後に、委員からだったですね。継承する文化は、何かはっきり形がないと駄目だという話があって、あと固有性の話にもなるのですけれども、これも委員が的確に整理されていたと思うのですが、何が地域の文化的なシンボルになるかというカリスマのある人物とか、自然地形とか、あと固有性のある建造物、大体、この三つはどの場所でもシンボルになり得るものだなと思いますので、何か、今、大河ドラマを放映されていたから渋沢だということとか、あるいは、老朽化したから建て替えだという、そういう単独のビジョンではなくて、これをつくることで地域アイデンティティーを醸成していくのだというような展望で、全体をつなげるような理念がここでつくられるとすごくいいかなと思います。

○部会長

ありがとうございました。

それでは、委員、お願いいたします。

○委員

皆様のいろんなご意見を伺って、非常に参考になりました。

私が思ったのは、今回、地域文化・生涯学習・スポーツということのテーマで話したのですけれども、スポーツにしても生涯学習、それから文化にしても、20年後のお話ですので、20年後に向かって北区のシンボリックな、今もお話が出ましたけれども作り上げていくというのが、前回、前々回でもありましたが、地域振興、産業振興、非常に有効的なのではないかなと。

北区というと何と皆さんも聞いたことあると思うのですけれども、なかなか答えが返ってこない。昨日もケーブルテレビか何かをちらっと見ていたのですけれども、北区というと、赤羽の飲み屋街。それが決して悪いことではない。非常にそれも楽しい、いい文化だと思うのですが、さっきも言ったように、スポーツであったり、文化であったり、

生涯学習の面でも、北区は今図書館も非常に整備されていて、本当にそういう部分では進んで行っていただいていると思うのですが。20年後の話ですので、ぜひ、そういう部分でナンバーワンになるようなものをみんなで作って上げていくというのは、非常に大切なテーマなのかなというのを感じました。

以上になります。

○部会長

ありがとうございました。

委員、お願いいたします。

○委員

もう今年75歳になるのだけれども、人間は結構大変ですよ。だから一概に、少しやったから何に興味を持って、これは人生長いですから、いろんなところでいろんな方と出会い、あるいは自分の趣味とか、知能のあんばいによって歴史のものが好きになってみたり。人間は実に勝手なものだから、その中で行き当たりばったりで、私という人間をつくっていく作業になるわけで。

これが一概に全部一緒の生き方をしたら、これは面白くないわけで、自分という人間が、生まれて、どうやって死んでいくか。あるいはその中で、孫であったりいろんなところで、おじいちゃんはこの人だったとか、ああだったとか、社会的にも、では、あの人は変な人だったとか、ろくでもなかったとか、いろんな評価を得られるような、あるいは悪党三昧言われるような人生もあろうかと思うので。

あまり深く考えて、文章で考えたものとして捉えていくのではない。自分で何ができるかということ、自分が生まれたことへの挑戦として、この芸術であったり、音楽もそうだし、好きなものをたくさん作り上げていく作業の一つなのかなと。私だったら、この古伊万里のことにかけては結構知識は、政治には役に立たないけれども、かなりの本の量を読んでいるし、自分の好きな世界を一生懸命築き上げることであるから、それに行政がそっと手を貸してくれるような、邪魔はしてはいけないと思うので、あるいは、そういった好き者同士が集まったら、そっと、できれば財源も出してくれたり、人に優しい文化、そして地域文化であり、生涯学習であり、スポーツであってほしいなど。

一つ別の面からいくと、日本社会に神社というのが地域にこまなく、コンビニより多いぐらい、5万7,000ぐらいあります。それが、無理やり造って、お寺と神社を離して造り上げたのだけれども、だんだん神社もお寺も忘れられて、お墓のない人生とかと妙な方向を向いていく。それは、どこかで何らかの力を加えたりした作業があった。

少し話が別だけれども、愛情とかそういったものによって人間はいろんなふうに変化して、形に、どのようなものにでもなれるのだということ、生きているということはそういうことだと思うので、ぜひともそういうことを大事にした人の接し方、作り方、それで、自分も誇りを持って生きていくということ、心がけないと、あっという間に人生終わりますので、ぜひとも、そういうことを教えてあげてほしいと思います。

○部会長

ありがとうございました。

続いて、委員、お願いいたします。

○委員

ライフステージに合わせて、確かに成長のサポートをしていくような仕組みがいろいろ必要なのかなというのを改めて聞いていて思いました。これは、確かに文化とか学習、スポーツというのは、自分たちが子どものときから、みんなが携わっていきながら、今、大人になってもですし、これからもずっと続いていくことになる中で、支えていくものというのがどのような形であろうとあるのだろうかと思いました。

それが結果的に、ITだったりとかテクノロジーの力というのが、今、現代にも生かされていくということが、ほかの皆さんからお話、いろんな具体的な話がありましたけれども、非常に、私、その辺りが弱いなと思いつつながら、北区の中で先進的なITとかテクノロジーの文化というのがこれから生まれていきながら、同時にこういう文化をそういうところの側面でサポートすることが、文化・芸術のサポートにつながっていったりとか、産業の発展につながる。

全てがテクノロジーに頼ればいいのかという話ではないので、結果的にオフラインだったりとかいう、このコミュニティがあることによって、人と人とのつながり、サポートしていくというものの両側面を持ちながら、このまちづくり、ないしは地域文化というのが新たに継承されていくのではないかなと思いました。

あとは、皆さんが言ったとおりだと思います。

○部会長

ありがとうございました。

○委員

私も、皆さんが言ったとおりだと思いますという感じなのですが、自分で言った、北区で継承していくものは何なのかというところで、20年後というのは、ちょうど終戦から100年を迎えるかというところで、一番継承していきなさいいけないのは、そこだなという。では、北区で何が平和かというところ、特出したものがあるかないかというのは分からないのですけれども、生涯学習であったりとか、地域文化・生涯学習・スポーツ、これは平和があった上でしか実現できないというか、そういった自由が全て奪われてしまうということが起きないように、一番伝えていきなさいいけないのは、日本人としてここなのかなということ、一つ改めて思いました。

それから、公園造りですとか屋外運動施設とかを造ってほしい、もっと拡充してほしいというところで、そのときに、SNSで皆さん発信していくように今なっていますので、何か公園を造ったりするときに、SNSで何かを発信することを前提にした造り方をしてもらおうと、それがシティ・プロモーションにもつながっていくのではないかなというふうに思いました。

パソコンなどのオンラインで勉強できるスペースが各地にあるということを委員からの意見があったかと思うのですが、そのほかに、今は撮影をしてSNSに投稿し

てということで、撮影スタジオというものも、もっと増えてもいいのかなというふうに思いました。そのときに、SNSで発信すると、それが収益化されるということがどうしてもついてきたりしますので、収益化するとその区の施設は使えないよとか、そういうことが出てくるので、この収益化のところと区の施設を使うときの、公ルール化というのが時代に合ったものであることを望みます。

以上です。

○部会長

ありがとうございました。

いろんなご意見いただきました。まだまだお話し足りないこととか、もしございましたら、どうぞ引き続きご発言いただいても構いませんが、いかがでしょうか。まだ時間もございますので、もしお話になりたいことがございましたら。よろしいでしょうか。

この議論は、なかなかいつまでたっても難しいなと思います。ぜひ、委員の皆様方のご発言を踏まえて、いろいろとまとめていただければありがたいなというふうに思っております。

それでは、まだもう一つ議題がございます。その他ということで、事務局のほうからご説明をいただければと思います。よろしくお願いたします。

○事務局

その他ということで、まず、ワークショップ等の実施結果を説明させていただきたいと思っております。こちらのピンクのカラー刷りの資料をご覧くださいませでしょうか。

新しい基本構想を策定するに当たって、区民の方のニーズや区民の方のアイデアを構想策定に活用するために、1ページにお示しのとおり、小中高生や区民向けのワークショップ等を実施いたしましたので、その内容をまとめてご報告させていただきたいと思っております。

資料2ページをご覧くださいませでしょうか。

小学生と区政を話し合う会についてでございます。お示しの日時で「20年後の北区のキャッチフレーズを考えよう」をテーマに、お示しの「北区の好きなところ、こうなっていたらよいと思うこと」や3ページでございます「20年後の北区のキャッチフレーズ」ということで考えてもらいました。

3ページの右の列の3行目にあります「来たくなる街 北区」のように、耳にすっと入ってくるような小学生らしいキャッチフレーズを考えてもらったというところでございます。

続いて4ページ、ご覧くださいませでしょうか。

4ページは、中学生モニターについてでございます。本来は夏休み期間中に3日間で開催する予定でしたが、昨年の夏も新型コロナウイルスの新規感染者数が急増していた状況でして、延期とし、11月に一日での開催ということで開催させていただいたところでございます。

中学生についても「北区の好きなところ、こうなっていたらよいと思うこと」をあげてもらったというところで、5ページにお示しのように、中学生が考えたキャッチフレ

ーズに対して、自分たちにできることといったところも考えてもらいました。

1 グループの「安心・安全レトロなまち北区」のキャッチフレーズに対して、そのためにできることとして、右側のSNSで若い世代へアピールすることや、資料の中段にございますアーティストバンクの活用。こちらは、先ほどご紹介いたしました北区の文化芸術活動の拠点である、ココキタで活動する若手アーティストたちの情報を活用することや、アーティストバンクの活動に参加することで、北区のことをもっと認知してもらえるといったご意見をいただいたところでございます。

続いて、6 ページ、ご覧いただけますでしょうか。

こちら、高校生のワークショップということで、北区の高校に通う高校生を対象といたしまして「高校生のあなたが思う20年後の北区の将来像とわたしたちができること」などをテーマに、放課後の時間帯にオンラインで開催をいたしました。

こちら6 ページには「北区の好きなところ」「イメージ」、7 ページには「北区の特徴」「課題」ということで、7 ページの課題の上から二つ目ですけれども、先ほども委員からご指摘あったように、高齢者だけ、若い人だけでなく、年齢に関係ないもの、北区といったら何というもの、つくっていくといったところ、これも高校生からの意見としていただいたところでございます。

8 ページ、ご覧いただけますでしょうか。

8 ページには「将来像」と「将来像のためにわたしたちができること」として、左下の私たちができることとしては、SNSによる北区の魅力を発信することや、学生である自分たちが北区の施設を利用し、活気づけることなどの意見をあげてもらいました。

資料の9 ページ、ご覧ください。

9 ページについては、区民ワークショップについてということで、第2回の審議会でご説明をさせていただきました区民意識・意向調査の対象者やWEBアンケートで参加者を募集いたしまして、右上にありますように、申込み自体は57名申込みがあったものの、1回目がちょうど緊急事態宣言の期間中ということで、オンラインの開催となったこと、これも影響したかと思いますが、1回目が14名、対面で実施いたしました2回目が20名、3回目が19名の方に参加いただくという結果となりました。

資料の10 ページ、11 ページ、こちらをご覧いただけますでしょうか。

こちらに、1回目、2回目のテーマ、こちらについては、小中高生と近いテーマで実施をいたしまして、11 ページの右側のテーマ2「北区のキャッチコピーを考えよう」では、考えていただいたキャッチコピーへ参加者による投票も実施いたしまして、お示しの投票数が多かったもの順ということで記載をさせていただいております。

こちら、11 ページのテーマ2ですが「タワマンなしで程よく発展」「創造的な街課題を抽出して、自ら解決できる」「北区ドリーム」、こういったところが、投票数を多く得たキャッチコピーだったということをご報告させていただきます。

続いて12 ページの3回目、こちらをご覧いただけますでしょうか。

12 ページの3回目については、各政策のグループに分かれて具体的な取組内容についてご意見をいただいたところでございます。

最後に13 ページ、14 ページには、各ワークショップ等の、同じ質問項目について並べた実施結果をお示しさせていただいております。

13ページの「北区の好きなところ」、14ページの「20年後の北区のキャッチフレーズや将来像」、こちらに共通して多かったのが、自然や緑といったワード、非常に多かったということで、こちら認識をしております。また、子育てや生活・交通の利便なども含めて、基本構想の北区の将来像となるキャッチフレーズを考えるに当たっても、こちらを参考にしていきたいというふうに考えております。

各ワークショップ等の詳細については、後ほどご高覧をいただければと思います。

次に、本日ご議論をいただきました、地域文化・生涯学習・スポーツの20年後の望ましい姿の部会後の意見ついてでございますが、後日提出いただける委員については、期間が短くて恐縮ですが、1週間後の3月4日金曜日までに、こちらから資料を送付いたしましたメールアドレス、またはファクスでご提出をいただきたいと思います。

次に、次回のスケジュールでございます。

次回は、4月22日金曜日、午後2時から部会を開催する予定でございます。開催通知につきましては、部会資料とともにメールと郵送にて、おおむね部会開催日の1週間前に送付をさせていただきたいというふうに思っております。

次回の内容についてですが、第2回、第3回と本日の第4回で「産業振興」「観光・シティプロモーション」「地域振興」「人権・多文化共生・男女共同参画」、本日の「地域文化・生涯学習・スポーツ」の分野について、皆さんからいただきました意見を踏まえて、それぞれの分野の「20年後の望ましい姿」について、事務局でまず案をお示しさせていただきたいと思っております。事務局案にご意見をいただきまして、修正したものを部会まとめとさせていただきまして、それを基に他の部会での議論を反映しました「中間まとめ」、これを事務局で作成し、5月の全体会でお示しをさせていただく予定でございます。

ワークショップ等の実施結果や次回以降の流れなどについて説明をさせていただきました。

その他について、事務局からは以上でございます。よろしく申し上げます。

○部会長

ありがとうございました。

今の事務局からのご説明、ワークショップ等の実施結果を含めて、何かご質問とかございますでしょうか。

教えていただきたいのですが、ワークショップで、例えば区民の方々、53名参加されたと、延べで参加されたということですが、この方々の、例えば区の居住歴であるとか、そういったことは、やはり相当、この区に住まれている方がほとんど来たのかどうかというのはどうなのか。こういうワークショップを行うと、多分、地域にずっといらっしゃる方が多いのかなと。それ以外の方々の話を聞くというような機会になっているかどうかというのは、伺いたいのと。

もう一つは、これ、勝手な妄想なのですがけれども、中学生に基本構想を少しつくってもらおうというのも面白いのではないかなと。それで、それをそういうふうな若い人たちの視点での基本構想みたいなものもあったら面白いのではないかと、少しお話を伺って感じました。

○事務局

今いただきました意見の回答をさせていただきたいと思います。

まず、9ページにございますワークショップの希望者は57名あったのですが、参加された方というのは、オンラインで開催した1回目については10ページにございます参加者14名ということで、2回目が20名、これは対面で実施をして、3回目も対面実施で19名というところでございました。

今回、この募集をするに当たって、今、部会長からもご指摘あったように、こういったワークショップに参加される方は、地域に長くお住まいのご高齢の方が非常に多く、そういった方が多くなってしまいう可能性が高いということを事務局でも危惧いたしまして、無作為に抽出した2,000人の区民意識・意向調査、その中にご案内を入れさせていただいたというのと。あと、WEBアンケートの結果を全体会でも皆さんにお示しをさせていただいたかと思うのですが、そこでも周知をさせていただいたということで、今までだと北区ニュースといって紙媒体のもの、それを見ていただいて、来ていただける地域に長くお住まいのご高齢の方、あるいは地域に日頃から関心がある方がワークショップに参加いただくことが非常に多かったかと思いますが、そういった別の手法で今回募集をかけたということで、比較的年齢も若い方が参加をいただいたかなといったところでございます。

居住歴について、把握はできていないのですが、オンラインで開催したときは20代の方が三人、30代の方が二人、40代の方が三人、50代の方が三人、60代以上三人ということで、少し年齢はばらけた形でご参加をいただけたといったところでございます。

あと、中学生が構想をつくってはということでご意見をいただいたところですが、中学生モニターにも小学生と区政を話し合う会でも、北区のキャッチフレーズというのを考えていただいて、可能な範囲でお示しをさせていただいています。北区の将来像についても、ご意見を踏まえた上で、キャッチフレーズをつくっていきたいというふうに考えております。

以上です。

○部会長

ありがとうございました。

よろしいでしょうか。ほかにどなたか。

もしご発言等なければ、少し今日は早いのですが、これで第4回部会1「躍動」部会を終了したいと思います。

どうも議事の進行、ご協力ありがとうございました。次回の部会も、どうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。